

## Y13b 日本の天文史跡目録と史跡保護

松尾 厚 (山口県立博物館)、松村 巧 (山口県下松市)

我々は長年にわたり、日本の天文史跡(数百か所)について調査を実施してきたが、このたび、それらの史跡のうち、文献精査を終え、現地調査を実施した史跡100か所について、「日本の天文史跡目録」(松尾・松村・西城, 2006, 山口県立山口博物館研究報告第32号, 35-59)として取りまとめた。この目録には史跡の概要だけでなく、全史跡の写真、文化財としての指定状況などを掲載している。

今回の目録は、博物館での展示活動、学校での総合学習・郷土学習など、教育面での活用を念頭に置いて編集したが、調査の過程で、天文学史的に意義深い史跡が危機に瀕している状況が明らかになった。

例えば、明治期から大正期にかけて、水路部が海図作成のために実施した天測の標石は、現存が確認されているものはごくわずかで、我々の調査中に破棄されたものもある。また、現存する明治7年(1874)の金星太陽面通過の観測台については、長崎県(フランス観測隊)では、県指定文化財として保存されているが、横浜市(メキシコ観測隊)のものは無指定のままなど、同等の史跡の保護状況も一様でない。

現在、日本の近代化遺産の保護活動が各方面で取り組まれているが、天文学の分野においても、文化財や史跡の保護についての関心を高める必要がある。今回作成した目録は、天文教育のみならず、天文史跡の保護に関する基盤情報を提供する。